

令和2年度 土佐町社会福祉協議会事業報告書

〈事業総括〉

令和2年1月16日に、日本で初めて新型コロナウイルス(以下コロナ)感染者が確認されて以来、世界中で未知の病原体との戦いが始まりました。国内で、感染により亡くなられた方も1万人を超え、経済の危機的状況や新しい生活様式等、社会を大きく変貌させる事態となりました。

地域福祉活動の基盤は、「つながりづくり」ですが、コロナの感染拡大、さらには長期化によって、人と人とが互いに距離をとり、接触する機会を減らすことが強く求められたため、地域福祉事業のほとんどが影響を受け、中止や延期を余儀なくされました。

誰もが経験したことのない状況とはいえ、「何をすべきか」土佐町社協にとって苦悩の年となり、地域における支え合いや在宅生活支援の必要性を再確認する年度となりました。

法人運営部では、サービス利用者の感染予防対策はもとより、職員のコロナの感染を予防するため、職務における対応及びサービス利用者や地域活動への感染予防のためのパーテーション・消毒類・PCR検査キット等の購入、さらには、職員の感染を想定した、シュミレーションを行う等危機管理に努めました。職員で罹患または、濃厚接触者となった者はいませんでした。接触者や本人の発熱等により抗原検査/PCR検査を受けた職員は3名でいずれも陰性でありました。

今、第4波の感染拡大が広がる中、長期化も予想され、緊張感をもって予防対策にあたる必要があります。

一方、働き方改革に伴うパートタイム・有期雇用労働法が施行され、不合理な優遇格差が禁止されたことにより、嘱託職員・パート訪問介護職員の処遇改善や福利厚生の実施に努めてきました。働きやすい職場環境をつくり、処遇改善を機に、安定的な職員の確保に向けて一層取り組みをすすめていく必要があります。

在宅福祉部では、虐待防止マニュアルの作成等、各マニュアルの見直しを進め、日常生活支援事業の運営適正化委員会の現地調査を受け、改善点も明らかになりました。

訪問介護は、新規の利用者が増え、全体のサービス量も増えましたが、訪問介護員の確保が進んでおらず「住み慣れた家で暮らしたい」という願いをかなえるためにも一層の取り組みが必要です。昨年度に引き続き、生活支援・介護予防連絡会の実施、地域・在宅福祉部・地域包括支援センターとの連携により、他の制度を利用してなお、「生きづらさ」を抱えている方々への対応も含め、個別支援に力を注いできました。

中でも、令和元年から開始した社会参加応援事業の利用者はこれまで5名が利用し、就職につながった例もあり、制度の狭間にある方々への支援をつくりだしていくことが今後も重要であると考えます。さらに、老人給食を見直していくために、民生委員児童委員協議会等と連携して、見守り訪問や聞き取り調査等を実施し、懸案であった「老人給食の在り方」について協議し、令和3年度から老人給食を新たな形で見守り活動としての実施に向けて協議を重ねていきます。

コロナ対策による緊急小口資金貸付の対応は17件と比較的少ない状況でしたが、失業等による経済的な困窮など、コロナによる影響はこれから本格化し、じわじわと生活を脅かしてきます。しかも、医療や介護保険料の引き上げ等、益々生活は苦しくなっていくことが予想され、生活困窮者支援事業において、県、町と連携し個別支援体制をより強化していく必要があります。

地域福祉部では、コロナウイルス感染防止対策に伴い、「集う」という機能が果たせなくなり、支え合う力が低下した地域には大きな打撃となりました。ボランティアセンターではマスクの縫製ボランティアを募るなど地域のつながりを絶やさない取り組みをしました。

また、遠距離に住む家族の支援が低下することを予想し、3月から訪問活動を実施して、聞き取り調査を実施するなど、生活課題等の状況把握に努めました。

社会的研究において、社会参加の頻度と健康指標の関係が明らかにされつつあり、コロナによるとじこもりが、ひいては要介護状態を悪化させることも立証されております。

本年度のあったかは、4月5月と休止し、利用者数の制限等により参加者は、ピーク時の3割に減少しました。つながりの再構築に向けてアフターコロナへの取り組みを今から検討しなければなりません。

試験的な取り組みとして老人クラブ等と連携し、あったかふれあいセンターにおいてWEBを利用した、対話実験や買い物支援を試みており、新たなつながりづくりをすすめ、心の交流を絶やさない活動を展開していかなければなりません。

さらに、地域福祉活動計画推進においても、コロナの影響で地域支援金の利用に至らず、各地区での具体的な取り組みも鈍化しましたが、森地区においては活動組織が結成されるなど、地域活動基盤が整備されつつあります。令和3年度は各地域活動の底上げに取り組んでいく必要があります。

◆法人運営部門◆

信頼を高めるために、情報発信を強化すると共に、住民の皆様との対話を大切にしてきました。また、福祉事業推進のための財源確保に努めました。

(1) 社会福祉大会の開催

町と協議の上、福祉大会は未実施

100歳表彰の該当者に会長よりお祝い品を贈る

川田芳子様

伊藤万亀江様

川田敏美様

(2) 福祉とさちょうの発行

2,300部 3回

▶ 夏休みプロジェクト等限定の広報を回覧するなどして広報した

(3) ホームページの運用

▶ 3月末より運用を開始しフェイスブック等のリンクの検討をすすめた

▶ 専門職の指導を受け運用をすすめた 7回

(4) フェイスブックの運用

▶ フェイスブックを運用し広報活動を行ったが、システムの不具合で年度途中より、更新が不可能となりアカウントを削除したため、集計ができなかった

(5) 各パンフレットやちらしの有効活用

随時

(6) 地区長会における事業理解促進

4回

(7) マスコミ・他の広報紙等への掲載

なし

(8) 各地域、団体を対象とした社協事業説明

未実施

(9) 募金・寄付・会費についての学習会・説明会の実施

▶ 地区長会において、資料により説明実施

▶ 町中学校終業式において説明

○ 寄附活動への理解を促進し、福祉基金・事業資金への寄付を受け入れた

▶ 福祉基金寄附金 9人

970,000円

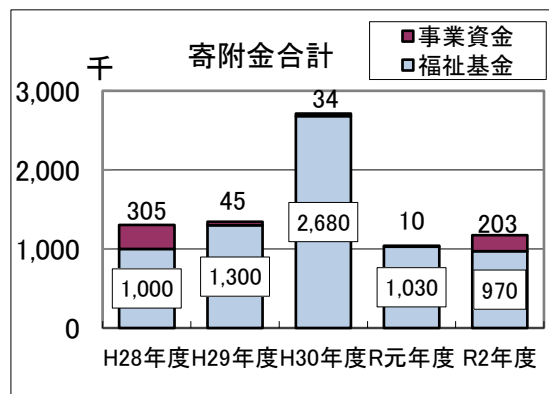
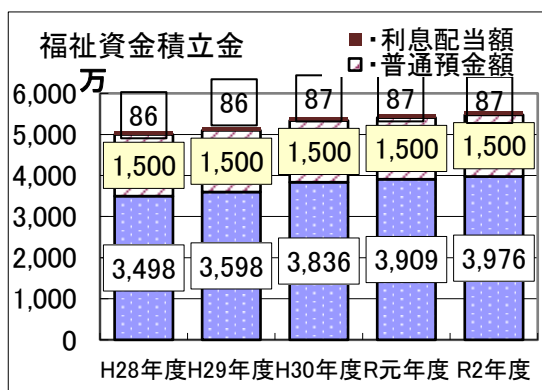
▶ 事業資金寄附金 1団体 5人

202,825円

○ 福祉基金積立

基金積立額

- ▶ 定期預金額 39,764,680 円
- ▶ 普通預金額 15,000,000 円
- ▶ 利息配当額 874,588 円



○ 地域支援金事業の促進 (令和2年度実施事業なし)

○ 共同募金について住民への周知に努め募金活動を実施した

▶ 一般募金

目標額: 922,000 円 実績額 997,851 円

▶ 共同募金配分金事業(一般募金配分額:683,916円)

高齢者福祉事業として老人給食を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の為対象の方へ見守り訪問活動を行い、感染予防の啓発物やお弁当購入費と訪問ボランティアへの実費弁償費に、また社会福祉大会中止の為100才記念の経費、広報費として活用した

○ 日本赤十字社土佐町分区として、活動資金募集を行った

▶ 日赤活動資金

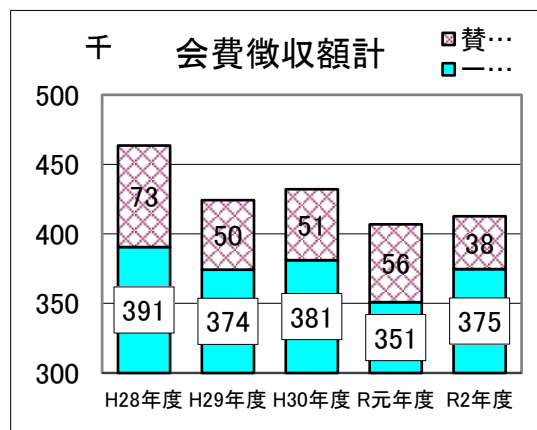
目標額:615,000 円 実績額:576,290 円

(10) 賛助会員の増強

○ 会員加入推進と会費の徴収に努めた

(一般会員:300円・賛助会員:1,000円)

- ▶ 会費徴収額 374,680 円
- ▶ 一般会費 1,252 世帯
- ▶ 賛助会費 38人(役職員等)



各法令や計画に基づき、确实かつ合理的な業務ができるよう改善を図りました。

(1) **社協強化・地域支援計画におけるPDCAサイクル実施**

- ▶ 9月に中間報告を作成し、推進状況を確認
- ▶ 業務目標における計画への具体的な取り組みを推進

(2) **職員会における定款・規程・要綱・マニュアルの確認**

- ▶ パートタイム職員への説明 1 回
- ▶ 嘱託職員への説明 1 回
- ▶ 職員会における就業規則の説明 1 回

(3) **社労士の指導による労務管理事務の適正化** 2 回

パートタイム有期雇用労働法に基づく対応

(4) **委託事業の評価と今後の方針について行政と協議** 2 回

(5) **団体事務の合理化と団体活動支援**

- ・民生委員児童委員協議会 ・老人クラブ連合会 ・遺族会
- ・身体障害者協議会 ・日本赤十字社土佐町分区 ・共同募金委員会

(6) **理事会(部会)の開催による協議** 4 回 (内 部会1回)

(7) **評議員会による評議** 3 回

- 理事会・部会・評議員会の開催により事業計画と予算執行の安定かつ効果的な法人運営に努めた

理事会		決議事項	参加人数
第1回	令和2年5月29日 13:30～14:29	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度事業報告並びに収支決算承認について ・令和元年度会計監査報告について ・定時評議員会開催について ・評議員の候補者について ・給与規定改定について ・第6次地域福祉活動計画の策定について 	理事 9人 監事 2人 計 11人
	令和2年9月24日 13:30～15:58	<ul style="list-style-type: none"> ・評議員選任解任委員の選任について ・補正予算について ・理事改選に伴う候補者について ・社会福祉大会中止に伴う表彰・感謝状の贈呈について ・評議員会開催について 	理事 9人 監事 1人 計 10人
	部会	<ul style="list-style-type: none"> ・各部の事業進捗状況について 	

第3回	令和2年11月30日 13:30～15:05	・給与規定の一部改訂について	理事 8人 監事 2人 計 10人
第4回	令和3年3月22日 10:00～11:45	・令和3年度事業計画について ・令和3年度法人本部拠点区分収支予算書について ・評議員会開催について ・嘱託職員の期末手当支給について ・マイクロバス運航規程廃止について ・正職員への復帰採用について ・嘱託職員雇用契約について ・令和3年度業務分担について	理事 10人 監事 2人 計 12人

評議員会		決議事項	参加人数
第1回	令和2年6月23日 13:30～11:15	・令和年度事業報告及び収支決算承認について ・令和元年度会計監査報告について	出席委員 9人
第2回	令和2年10月20日 14:00～ 14:55	・令和2年度補正予算について ・理事選任について	出席委員 8人
第3回	令和3年3月30日 13:30～14:35	・令和3年度事業計画について ・令和3年度法人本部拠点区分収支予算書について ・正職員への復帰採用について ・嘱託職員雇用契約について ・令和3年度業務分担について ・各会議開催予定について	出席委員 11人

- ▶ 監事監査 5月 19日
- ▶ 評議員選任解任委員会の開催 10月 5日

(8) 職員会 部会 主任会の開催と充実

- 主任会・職員会を実施し、健全な法人運営や事業経営をめざすとともに、報告・連絡・相談を徹底し各部門間の連携に努めた
 - ▶ 職員会 12回
 - ▶ 主任会 5回
 - ▶ 在宅福祉部会 4回
 - ▶ 地域福祉部会 7回
 - ▶ 総務部会 5回
 - ▶ あったか職員連絡会 6回

- (9) 三役会の開催 2回

(10) 訪問介護・障がい者相談支援事業の安定した経営のための人材確保

- ▶ 介護福祉士1名を雇用

(11) 職員面談の実施

- 1回 (職員全員と事務局長)
- 1回 (正職員・嘱託と会長副会長)

専門機関からの支援を受け、コンプライアンスの徹底を図るとともに、職員の資質向上をめざし取り組みを進めました。

(1) 各研修・学習会への積極的参加

○ 職員の資質向上のため、他の社協への訪問や研修参加に努めた

- ▶ 法人運営・会計関係 1日 延べ 2人
- ▶ 在宅福祉事業関係 17日 延べ 19人
- ▶ 地域福祉事業関係 17日 延べ 35人

(2) 目標をもって業務にあたる評価できる体制づくり

- ▶ 職員会・主任会で要綱を協議し、評価シートを作成

(3) 自主学習会(事例検討会)を実施し、協働体制を強化

2回

(4) 大学・専門機関からの指導助言を促進

- ▶ 働き方改革推進センター 2回
- ▶ 労働基準監督署 2回
- ▶ 税理士(県社協) 3回

(5) 法改正に則した諸規程の見直し

- ▶ 給与に関する規程一部改訂

(6) 先駆的な社協との交流・視察研修 未実施

(7) 文書保存・破棄・管理

- ▶ 老人クラブ倉庫及び作業場の文書廃棄
- ▶ 事務所倉庫の道具を整理し、相談室を設置した
- ▶ 車庫の倉庫を整理し、防災倉庫として整備した

(8) 休暇取得等 処遇改善

- ▶ パート職員の有給休暇取得にむけた整備
- ▶ 訪問介護員の賃金改定について協議し、令和3年4月1日より単価を引き上げ
- ▶ 嘱託職員の期末手当支払いについて協議し、令和3年4月1日付規程改訂(予定)
- ▶ 職員全員へのユニホーム(ウインドブレーカー)の配布

行政・各関係機関との連携を強化し、即応性のある支援体制をつくるよう努めました。
また、第6次地域福祉活動計画と連動した事業の推進に努めました。

(1) 第6次地域福祉活動計画評価委員会の設置・運営

- ▶ 9月25日 地域福祉活動計画評価委員会を実施した
評価委員・オブザーバ 13 人 職員 2人 理事 1人
- ▶ 第6次計画推進懇談会を開催した

旧小学校区	月 日	場 所	人数
平 石	3 月 16 日 (火)	平石コミュニティセンター	22名
石 原	3 月 18 日 (木)	石原コミュニティセンター	26名
瀬 戸	3 月 23 日 (火)	瀬戸コミュニティセンター	5名
松ヶ丘	3 月 25 日 (木)	松ヶ丘コミュニティセンター	19名
森	3 月 30 日 (火)	土佐町保健福祉センター	27名
和 田	4 月 2 日 (金)	中和田集会所	11名
相 川	4 月 6 日 (火)	相川コミュニティセンター	23名
地蔵寺	4 月 8 日 (木)	地蔵寺笑学校	17名
田 井	4 月 13 日 (火)	田井農村環境改善センター	28名
南 川	4 月 15 日 (木)	南川会館	6名

(2) 行政各課との連携強化

- 行政・社協相互の事業の理解と連携を図るため連携会議を開催した

- ▶ 健康福祉課との連携会議 2 回
- ▶ コロナウイルス感染予防対策についての打ち合わせ会議 1 回

(3) OJTに取り組み、各職務の役割を明確化

未実施

(4) 役職員の地域担当制の明確化と地域活動への参加

- 職員会・主任会において協議をすすめた

下記地域福祉に記載

(5) 災害・事故等に関する行動計画を推進

- ▶ コロナウイルス感染予防対策において、時系列の行動シミュレーションを実施
- ▶ WEB会議・連絡のためのズームソフト・タブレット・カメラを導入(老人クラブと連携)
- ▶ 防災倉庫の整備と、災害時の備品等を補足(日赤と連携)

(6) 町・県の実施する連携に関する会議への参加

町	▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会	11 回
	▶ 役場地域担当者リーダー会議	7 回
	▶ 役場地域担当者会	13 回
	▶ 福祉課との連携会議(予算・コロナ対策・あったか等)	7 回
	▶ 生活支援・介護予防連絡会	4 回
	▶ 土佐町地域ケア推進会議	2 回
	▶ 土佐町地域ケア会議(個別ケア会議)	2 回
	▶ 土佐町要保護児童対策地域協議会実務者会議	2 回
	▶ あじさいネット会議	1 回
	▶ 四者会議 地域共生社会の実現に向けた包括体制について	1 回
中央 東	▶ 令和2年度第1回日本一の健康長寿県構想嶺北地域推進協議会及び令和2年度高知県地域医療構想調整会議	1 回
県	▶ 市町村社協連絡会 事務局長等セミナー	1 回
	▶ 高知県地域福祉活動支援計画検討委員会	1 回

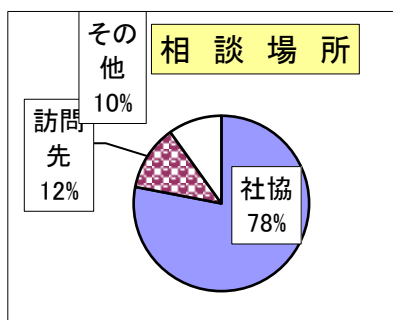
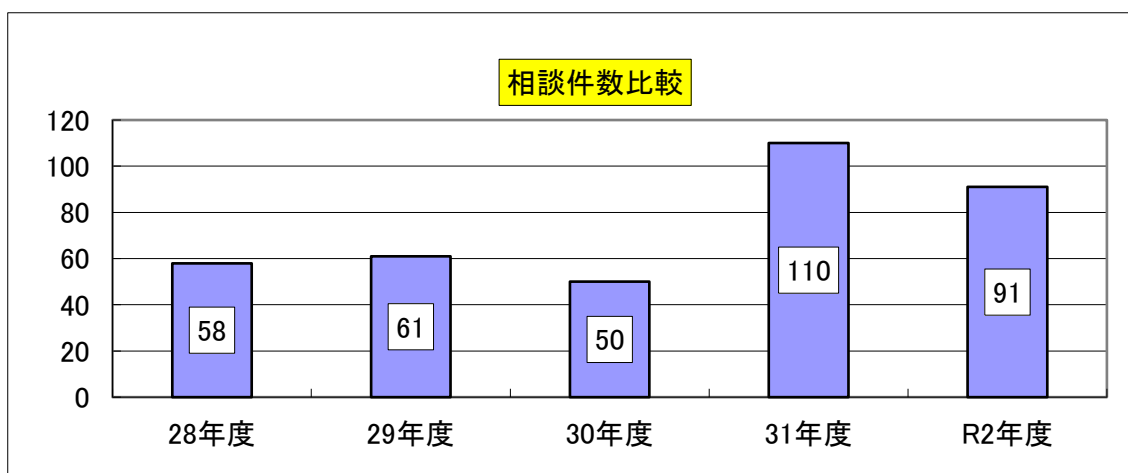
◆在宅福祉部門◆

身近で気軽に相談できるよう相談体制を強化し、訪問介護等により在宅における自立した暮らしを支援しました。

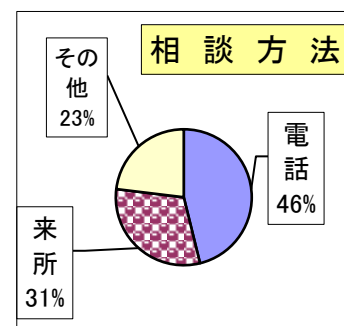
(1) 電話や来所での相談対応(きいてねっと)

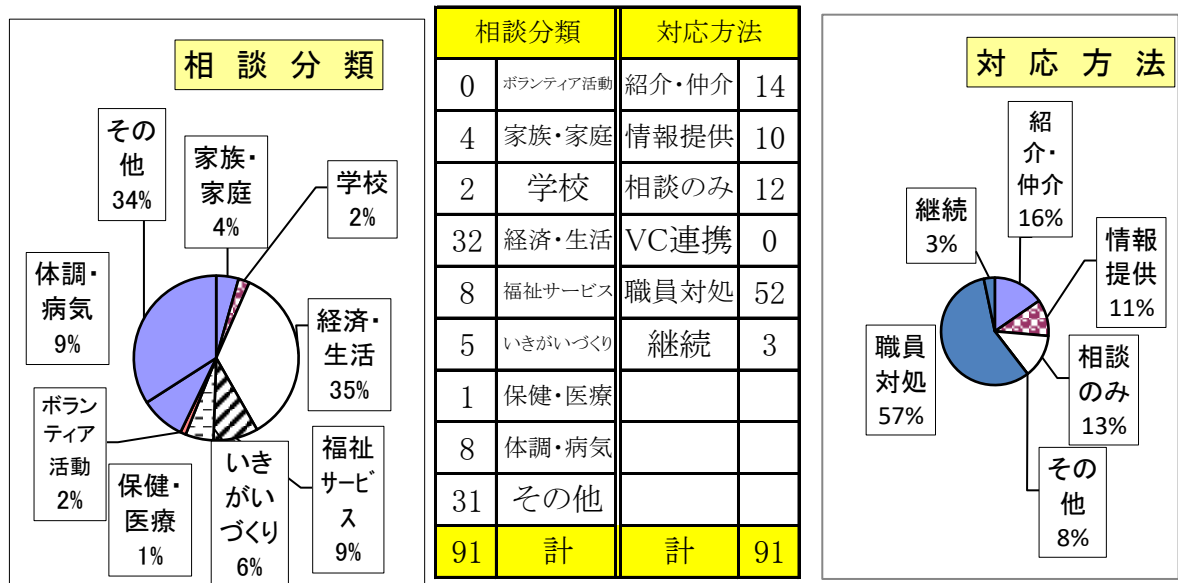
91 回

○ 総合的な相談窓口として相談を受け付け対応した



相談場所		相談方法	
71	社協	電話	42
11	訪問	来所	28
9	その他	その他	21
91	計	計	91





(2) 心配ごと相談所を活用した出張相談対応

6 回

※4月～6月、令和3年1月～4月はコロナウイルス感染防止対策の為、開催中止

(3) 訪問介護・居宅介護を通じた在宅生活支援

○ 引き続き人員不足傾向ではあるが、需要に合わせた安定供給に努めた

▶ 職員体制 ◎サービス提供責任者:1人(正規・介護福祉士)

◎介護福祉士:2人(嘱託・非常勤) ◎2級ヘルパー:3人(非常勤)

▶ 介護保険事業

訪問介護事業

対象者 年間 27 人 (令和3年3月現在 19人)

介護予防・日常生活支援総合事業

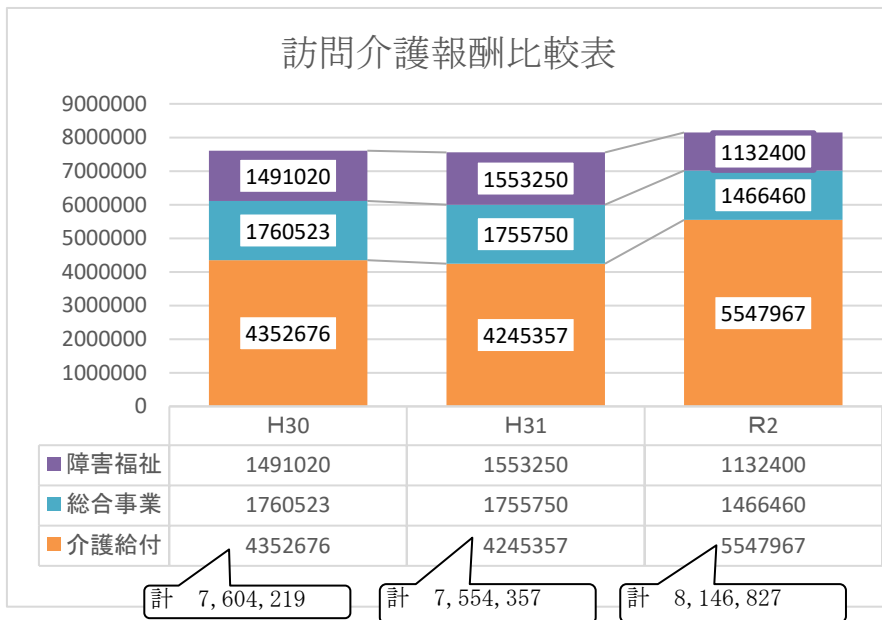
対象者 年間 10 人 (令和3年3月現在 6人)

▶ 障害福祉事業

対象者 年間 4 人 (令和3年3月現在 4人)

▶ 自立生活支援訪問事業(町委託金対象)

対象者 年間 0 人 (令和3年3月現在 0人)



本年度は、サービス提供量が多かった利用者が介護保険へ移行し、新規での利用者のサービス提供量が減った為、利用者の増減はないが報酬は減額している。
 要支援者の利用者は昨年比3人減となっている為の報酬減額と思われる。
 要介護者の利用については昨年比7人増加し、それに伴い報酬も増額した。

(4) 生活困窮者自立支援法に基づく自立支援

総合相談窓口として相談を受け、各機関と連携し対応に努めた

- ▶ 県・中央東福祉保健所・県社協・嶺北4町村社協等と、支援についての協議、連携
- ▶ 関係機関、各団体等の会合・あったかふれあいセンター等に参加し、協力依頼、情報収集
- ▶ 定期的に各支所、図書館等に関連チラシ等配布、協力依頼、情報収集
- ▶ 各事業所等において雇用に関する協力依頼
- ▶ 各関係機関との連携や、支援が必要な住民に対する効果的なアプローチについて意見交換(支援会議の定期的開催は無)
- ▶ 県社協フードバンクと連携し、食糧支援
- ▶ 嶺北地域出張ハローワーク開設協力

毎月第3火曜日午後1時から土佐町農村環境改善センターにおいて開設
 嶺北4ヶ町村の生活困窮者自立支援事業利用者・生活保護受給者が利用

- ▶ 研修会、説明会、連絡会等へ参加 3回
- ▶ 個別訪問等で情報収集、要支援者支援 延べ 187件
- ▶ 自立相談支援機関受付件数 29件
 - ・ プラン作成 3件 (前年度からの続行あり)
 - ・ 同意に向けて取り組む 1件
 - ・ 他機関につなぐ 21件
 - ・ 情報提供のみで終了 8件
 - ・ 相談継続 2件
 - ・ その他(窓口で完結、打ち切り、解決) 8件 (上記重複あり)

(5) 障害者総合支援法に基づく計画相談及び自立支援

- 一般相談事業を受託し、障害(児)者の相談支援を実施した
 - ▶ 土佐町 17人 対応時間 96時間
- 指定特定相談支援事業(計画相談支援)の状況(令和3年3月末現在)
 - ▶ 土佐町 26人

(6) 訪問活動を実施し、顔のみえる関係づくり

- ▶ 生活支援コーディネーターによる訪問 248件
- ▶ あったかふれあいセンター職員による訪問 1,444件
- ▶ 生活困窮者相談支援員による訪問 187件
- ▶ 障害者相談支援事業による訪問 一般47 計画255 315件
- ▶ 日常生活自立支援事業による訪問 (相談援助件数) 262件

(7) 日常生活自立支援事業による生活支援

- 高齢者や障害者の方などが自分ひとりで判断することが難しくお困りの場合に、安心して日常生活が送れるように支援に努めた
 - ▶ 利用者 3人 (認知症高齢者1人・知的障害者1人・精神障害者1人)
 - ▶ 利用内訳 日常的金銭管理サービス 3人
 - ▶ 契約者 0人 解約者 0人
 - ▶ 関連支援 制度利用準備中 4件
 - ▶ 地域包括支援センター・健康福祉課と連携し、虐待対応チームに参加して成年後見制度・利用支援へつないだ 1件
- 生活支援員による支援体制整備
 - ▶ 担当者 専門員(職員)1人 + 生活支援員 1人

(8) 成年後見制度の周知及び権利擁護の取り組みの推進

- ▶ 認知症総合支援事業における研修会に参加
- ▶ 民児協定例会において周知

(9) 低所得者層への福祉資金貸付けによる自立生活への支援及び償還指導

- ▶ 生活福祉資金貸付事業委託事務
- ▶ 県社協の行う貸付事業に対し、民生児童委員協議会とともに、債務者への償還促進ならびに、貸付相談に応じた

令和3年3月31日現在 貸付件数	5件
------------------	----

令和2年度 新規貸付 1件 *障害者車両購入費

- ▶ 新型コロナウイルス感染症特例貸付(申込期間令和2年3月25日～令和3年6月末日予定)

・緊急小口申込:6件 ・総合支援資金申込:8件 ・相談のみ3件 *計17件に対応

○ 小口生活福祉資金貸付事業(自主財源:500,000円)

低所得者の在宅生活の自立更正を図るための相談に応じ、適切な資金貸付を実施し、償還指導に努めた

▶ 令和3年3月31日現在 貸付件数	1 件	(内保護費受給者1人)
▶ 令和2年度 貸付滞納件数	1 件	(最終償還日 H30.10.31)
▶ 令和2年度 新規貸付	0 件	(相談のみ3件に対応)

(10) 車椅子貸し出し

8 回

制度の間にある方に手を伸ばし、支援に繋げるよう努めました。

(1) 社会参加応援事業の活用

3 人

(助成金:38,500円)

- 社会参加できていない若い方の情報収集に努めた
- なんらかの事情で社会参加できていなかった方のための場づくりについて協議をした

(2) 社会福祉充実予算を活用した地域福祉活動の支援

未実施

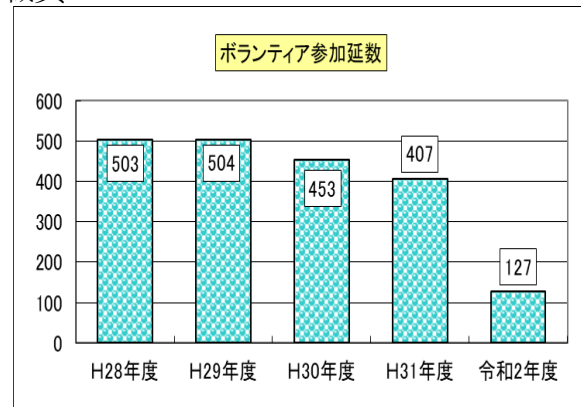
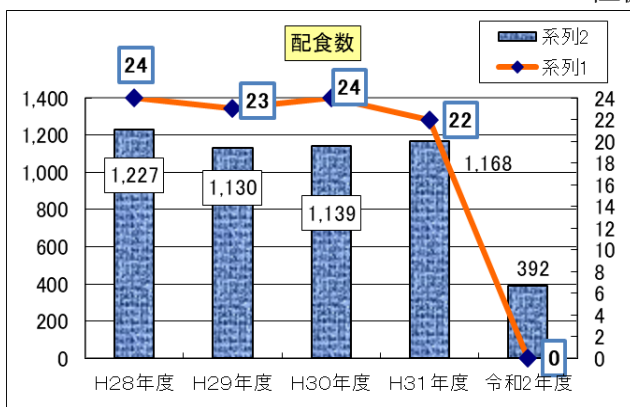
トキワ苑が実施する障害児のための学習会等を支援していたが、コロナのため未実施

(3) 老人給食を活用した声かけ訪問による状況把握

- ▶ コロナ禍により、老人給食事業は中止。11月から、民児協の協力のもと「見守り訪問活動」を実施した
- ▶ 4～5月、社協職員が対象者に訪問を行った。
- ▶ 対象者 85歳以上独居高齢者及び見守りが必要と思われる方 85 人

▶ 配食数 392 食 (11月～3月見守り訪問活動として)

▶ 配食 民生委員 延べ 108 人 延 127 人
社協職員 延べ 19 人



各機関と連携した見守り活動を推進しました。

- (1) **民児委員・福祉推進員による地域の実態把握** 随時

- (2) **老人給食を活用した声掛け訪問の実施** 上記記載

▶ 老人給食事業の見直しを図った

R2年3月～	コロナ禍により調理・配食中止
4～5月	3～5月訪問活動(あったかと合わせて)
4月～	4月より告知端末放送にて中止連絡に合わせて、見守り活動への協力をお願い
8月下旬	残暑見舞いを対象者へ送付
9月	職員会にて見直しに向け進め方とタイムスケジュールを検討
10月	職員による対象者への聞き取りアンケートの実施
10月20日	民児協定例会にて、対象者アンケートの結果報告と見守り訪問活動への協力をお願い
11月～	見守り訪問活動の実施(老人給食日に併せ、民児協協力のもと)
12月14日	職員会にて老人給食についての検討会の開催
1月14日	民児協定例会にて意見を聴衆
2月1日	職員会にて協議し各部会にて事業名など再度検討
2月16日	主任会にて検討
2月19日	地区長会にて事業見直しについて説明
2月24日	老人給食事業検討会の開催
3月22日	理事会において経過報告

- (3) **見守り協定団体・警察との連携会議の実施** 未実施

- (4) **緊急時の声かけ方法等の検討** 民児協等意識啓発 1回

- (5) **高齢者世帯防火防災点検の実施**

- 嶺北消防署、本山警察署、四国電力と協力して、独居高齢者本人と住居に対しての防災点検、防犯意識の啓発を実施
 - ▶ 新型コロナウイルス感染症予防対策による自粛の為、実施無
- 嶺北電気工事業組合のボランティア事業で、電気に関する点検や配線の簡易な修理を4年に1度巡回実施 本年度非該当

地域における支援体制をつくりに努めました。

- (1) **介護予防連絡会の開催** 4回

- (2) **地域内での助け合いの促進のため、で愛ふれ愛たすけ愛懇談会実施**

- ▶ あったか推進会議に参加し、情報収集に努めた

- ▶ モデル地区開催実施に向け、在宅福祉部会での内容検討を実施

(3) 傾聴ボランティア訪問

- コロナウイルス感染症拡大防止の観点からボランティアによる訪問を中止し、職員による訪問や社協に来所してもらったの傾聴を実施した
 - ▶ 対象者 2 人 6 回

(4) 認知症地域支援推進員を配置

○ 認知症サポーター養成等理解促進のための学習会を開催

- ▶ あじさいネット会議の開催 1回
- ▶ 多職種協働による事例検討を実施 1回
- ▶ 認知症に関する正しい知識の普及啓発活動

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症についての学習会(駒野ミニデイ)	10月8日	10 人	キャラバンメイト:和田純一
認知症についての学習会(桜会)	11月4日	7 人	キャラバンメイト:和田純一
認知症についての学習会(地藏寺)	2月16日	20 人	認知症地域支援推進員:松井美紀

▶ 職員やキャラバンメイト等の資質向上に向けた学習会の実施

テーマ	月日	参加人数	講師
成年後見制度について	11月25日	20 人	やいる法律事務所 山本尚吾弁護士

- ▶ 世界アルツハイマーデー記念講演会参加 1回 5人
- ▶ 高知県認知症カフェ交流研修会へ参加 1回 2人
- ▶ 認知症の人やその家族を地域で支える体制づくり
福祉推進員・地域のつどいボランティア対象にオンライン学習を開催

テーマ	月日	参加人数	講師
認知症・回想法についての学習会	2月23日	14 人	講師:早明浦病院 藤澤道子医師

- ▶ 土佐町立図書館企画展「ちょっと気になる本 認知症についてもっと知ろう」を開催
- ▶ あったかふれあいセンター集い等にて認知症の方をサポート
あったかふれあいセンター集いにてキャラバンメイト・認知症サポーターによる支援 5回
- ▶ ケアパスの活用(事例検討会や地域の学習会で活用)
- ▶ 小学校での読み聞かせボランティアを活用した認知症理解への学習 11 回
認知症、介護をテーマにした絵本の購入

- (5) 介護家族会の開催 5回
- ※1回はコロナウイルス感染防止対策の為、実施中止
- ▶出張型(つどいに参加できない方に対し、他の施設や自宅にて話し合いの場を設ける)

3回

行政・関係機関と連携し、個々のニーズに対応するよう努めました。

- (1) 民児協との連携による保育・学校・保護者との連携づくり
- ▶新入学時の説明会に参加し、民生委員について説明を実施
- (2) 地域包括支援センター・行政や民児協等関係機関(者)との連携による協働支援(ケース会の実施) 36回 内ネットワーク面談23回
- (3) 関係機関と情報共有、ケース会
- ▶要保護児童対策地域協議会へ参加 3回
- (4) 嶺北地区自立支援協議会へ参加し障害者の課題解決にむけた取り組み
- ▶土佐町部会 個別事例検討 2回
- ▶れいほく地区障害者自立支援協議会全体会 0回
- ▶就労支援部会 0回
- ▶相談支援部会 1回
- ▶相談支援部会プチ会 2回
- ※嶺北の関係機関に呼びかけ、ひきこもり支援を考える座談会を行った
- ※相談支援部会で「集える場所」については引き続き嶺北各町村で足固めを行う
- (5) 民児協・学校・保護者・関係機関と連携を強化し、子どもたちの適切な見守り・支援
- ▶障害児や自立支援が必要な世帯にある児童への見守りについて、個々のケースに対応して必要なつながりづくりを努めた
- ▶教育委員会と連携し、学校に通うことを選択しない児童への支援を保護者と話し合いをすすめた
- (6) 就労継続支援B型作業所へ協力し、連携する
- ▶「土佐町ものがたり」Tシャツプリント作業
- (7) 「やまびこ倶楽部」を通じ、現状の把握や相談に応じる

- ▶ やまびこ倶楽部 未実施
- ▶ デイケア交流会あったかハートふれあい大会に協力 未実施

(8) **身障協等と連携し、障害(児)者の社会参加への取り組み**

- ▶ 災害用グッズの配布
感染防止対策のため、外出支援は未実施

◆地域福祉部門◆

ボランティアセンター役割の明確化と職員の資質向上を図り、より多くの方々が地域活動に参加できる機会をつくりました

(1) **ボランティアセンター運営計画の作成**

- ▶ 部会にて検討 2回

(2) **ボランティア登録の推進**

- ▶ 個人・団体の登録を推進 29 団体 個人 59 人
- ▶ 機材貸出しや印刷機利用など登録団体への支援を行った

(3) **ボランティアに関する調査・研究**

○ ボランティアに関する研修への参加

- ▶ 12 月 22 日 社協の総合性を活かした福祉教育 2 人
- ▶ 2 月 27~28 日 多様なコーディネーション実践研究集会 3 人
- ▶ 3 月 5 日 地域支援実践検討会 2 人

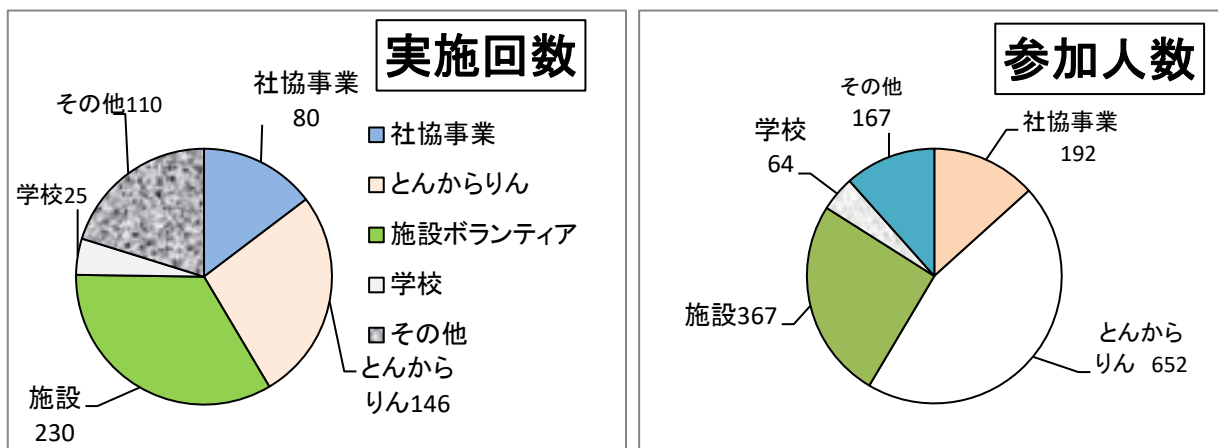
(4) **ボランティア養成講座の実施**

- ▶ 傾聴ボランティア養成講座 9 人

(5) **センターのマッチングによるボランティア活動の促進**

あったかふれあいセンターへのボランティアコーディネート 165 回 686 人

▶ ボランティア登録・相談及び実績記録を整備した



- 布マスクや折鶴をつなぐ作業を通じて今までに関わりのなかった方に呼びかけた
 - ▶ 小中学生用マスク 作成数 237枚 ボランティア 7人
 - ▶ 地域用マスク 作成数 506枚(大人・小人) ボランティア 35人
 - ▶ 折鶴つなぐボランティア 7500ケ(150束) ボランティア 58人
- コロナウィルス感染拡大の影響でイベントが中止になる中、新たな取組としてオンラインライブ配信イベント “エールtoレイホク”を支援した
- 奨学金返還免除のための地域貢献活動の支援 8人

(6) NPO・ボランティア団体への活動支援

- 企業、団体の活動支援とボランティア募集を行った
 - ▶ 5月29日 瀬戸川ロマン下草刈り
 - ▶ 7月5日 大人食堂in黒丸
 - ▶ 7月22日 出張手話教室(本山町)
 - ▶ 8月8日 相川愛校作業
 - ▶ 7月13日 セタプロジェクト
 - ▶ 11月8日 平石防災訓練
 - ▶ 10月4日 相川ららら棚田ウォーキング
 - ▶ 10月5日 瀬戸川ロマン下草刈り
 - ▶ 10月30日 石原音楽祭
 - ▶ 12月19日 厄除け作り(中島の集い)
 - ▶ 3月21日 エールtoレイホク

※ レイクビューさめうらボランティア活動支援(相川、森、地藏寺)

※ 子ども元気村、手話サークル、森郷ミニ88を楽しむ会、どんぐりボランティアの会、ジャイカ活動支援

(7) NPOや企業等との関係強化

- ▶ ほにゃらら新聞配布先への声掛け訪問を実施した。 3回

(8) NPO団体とのランチミーティングの開催

未実施

(9) 災害に備えた体制整備の強化

- ▶ 11月7日 災害ボランティアセンター運営訓練 31人
- ▶ 2月25日 地域で進める防災活動を考える会 6人

(10) 地域福祉活動及びボランティアに関する情報の発信

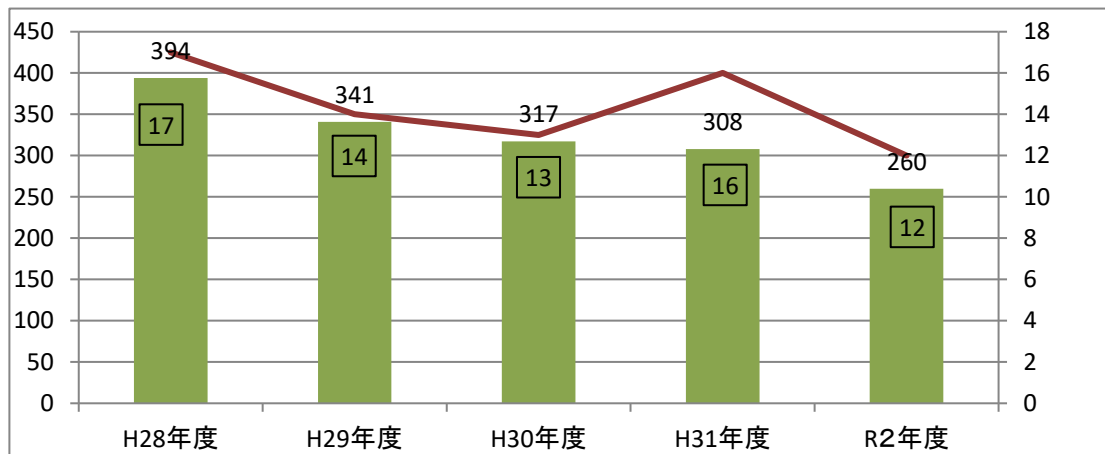
- ▶ ほにゃらら新聞を発行(1,140部/1回) 3回

(11) レク資材・印刷機等の貸し出し

- ▶ レク資材 プロジェクター等資材 10回
- ▶ 印刷機利用 21回

(12) ボランティア活動保険への加入促進

令和2年度保険加入件数 12団体 260人



次世代ボランティアの育成と地域や学校における福祉教育の充実を図りました。

(1) 福祉教育推進計画の作成

- ▶ 部会にて検討

(2) 学校や教職員との福祉教育の推進に係る懇談の実施

- ▶ 土佐町小・中学校校長と小・中総合学習の系統などについて協議 2回
- ▶ 嶺北高校とキャリア教育支援事業についての協議 5回
- ▶ みつば保育園との事業打ち合わせ 0回

(3) 学校と地域を結ぶ授業カリキュラムの作成・授業のサポート

学校名	打合せ	授業	講師・ボランティア(延べ)
土佐町小学校	8回	4回	7名
土佐町中学校	12回	13回	36名
嶺北高校	5回	2回	2名

▶ 嶺北高校生インターンシップ受入れ 4回 延べ7名 3名(実人数)

(4) 若年層への地域活動や講座の参加促進等の啓発

▶ マスク作りに関するボランティア活動推進

743枚作成 ボランティア参加延べ35名

(5) 小地域の要望・課題に合わせた福祉教育・生涯学習の機会の提供

▶ 社協出前教室の一覧表を作成し、地区長会や懇談会でPRした

(6) 学生を対象とした福祉・ボランティアワークキャンプの実施

▶ 小学生高学年対象にボランティアワークキャンプを実施

19名

第6次地域福祉活動計画の目標達成に向け、住民が主体的に活動できるよう支援をしました。

(1) 地域(福祉)活動支援センター(仮称)の増設に向けた取り組み

未実施

(2) 地域アセスメントシートの活用

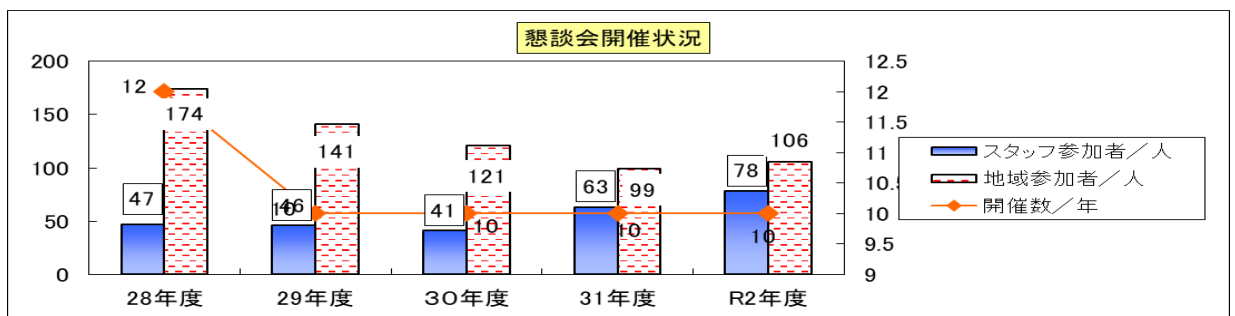
- ▶ 地域アセスメントシートを更新。評価委員・職員・関係機関職員に配布し共有した
- ▶ 生活支援介護予防連絡会等で、用いて協議をした
- ▶ 役場地域担当リーダー会にて配布し、会議に活用した

(3) 住民同士の話し合いの場づくり

▶ 活動目標の達成に向け、活動計画を推進する懇談会を旧小学校区単位で実施した

※コロナ禍で時期をずらし3月～4月にかけて実施

10回



- ▶ 活動目標推進に向けた推進団体等の話し合いへの支援を行った 44 回
内訳(松ヶ丘13回、石原2回、相川6回、森16回、平石2回、地藏寺2回、瀬戸・黒丸3回)

(4) **地域活動支援交付金の活用を促進**

- ▶ 地区長会や活動計画推進懇談会にて説明を行ったが、申請がなかった

(5) **行政地域担当職員・支援員・協力隊等地域支援における連携会議の開催・参加**

- ▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会に参加 11 回
- ▶ 役場地域担当者リーダー会議に参加 7 回
- ▶ 役場地域担当者会に参加 13 回

(6) **まちづくりメイトとの連携による、継続した計画の推進**

- ▶ 第6次計画策定にあたり、地区長会にて委員推薦を依頼。候補者が揃わず再依頼

(7) **地域担当職員の役割の明確化と地域支援の強化**

- ▶ 職員会にて地域担当職員の役割について説明し協議を行った 1 回
- 支援員・協力隊等地域支援における連携会議開催及び協力体制づくり
 - ▶ 集落支援員・産業振興課・健康福祉課・社協の連絡会を開催 11 回
 - ▶ 役場地域担当者リーダー会議に参加 7 回
 - ▶ 役場地域担当者会に参加 13 回

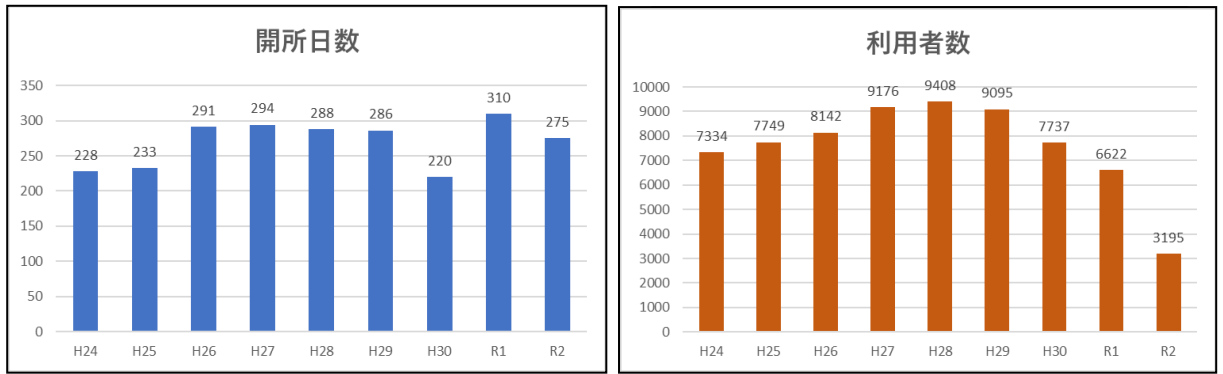
旧小学校区におけるコミュニティを持続し、支え合いの基盤をつくり、誰もが参加し活躍できるあったかふれあいセンターの機能強化を図りました。

(1) **サロンコーディネーター・地域サポーターの配置**

- ▶ サロンCoを2人、地域サポーター5名を配置し事業を実施した

(2) **拠点・サテライトの安定的な集いの開催(集う)**

- ▶ 4月～5月はコロナ感染予防対策として、集いは中止。訪問活動を継続して行った
46回 延べ 333 人
- ▶ 6月から感染予防対策をとりつつ、つどいを開催(6～3月)
275 回 延べ 3,195 人



(3) あったかふれあいセンター推進会議の実施し住民主体の活動を推進

- ▶ 活動評価、計画の策定、生活課題の情報共有 10回 延べ 171人
- ▶ 10か所におけるサテライト開設

○ あったかふれあいセンター事業を受託し、サロンCoを配置し事業を実施した
 4月～5月はコロナ感染予防対策として、集いは中止。訪問活動を継続して行った

集う	129回	延べ	1,736人
交わる(地域間交流・保育園児・視察 他)	1回	延べ	5人
学ぶ	1回	延べ	7人
送る	109回	延べ	1,184人
生活支援	21回	延べ	51人
訪問	192回	延べ	1,334人

(4) 利用していない方等への訪問活動(訪ねる)

- ▶ 地域サポーターと、訪問対象者をピックアップし利用者の拡大を図った
 201回 延べ 1,444人

(5) 異世代・地域外との交流の機会の増強(交流)

- ▶ 交わる(地域間交流・保育園児・視察 他) 3回 延べ 39人
- ▶ 夏休みプロジェクト 2回 延べ 41人
- ▶ 学習プログラムなどを取り入れ機能を強化する(学ぶ) 1回 7人

(6) 専門的指導を強化し、いきがづくりや、健康・教養等の学習プログラムの実施(学ぶ)

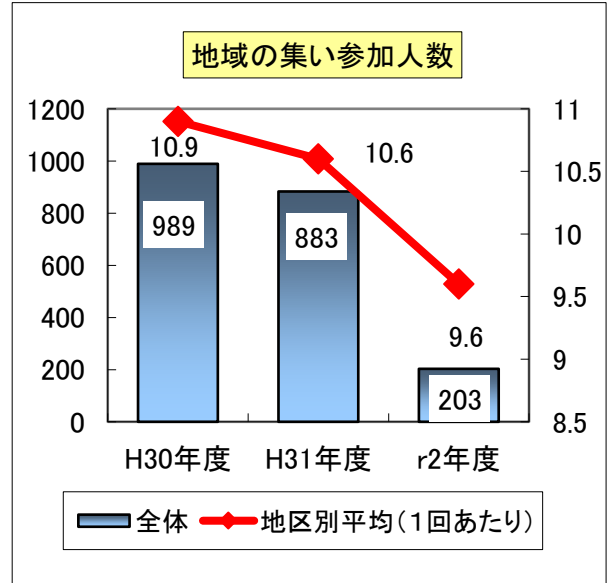
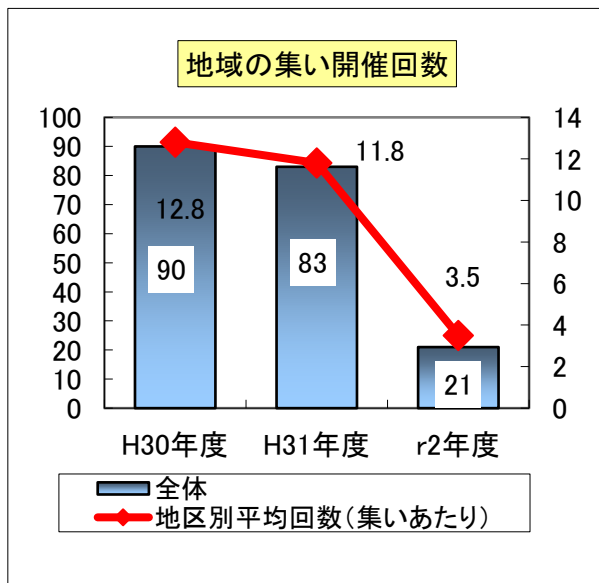
- ▶ 学ぶ 11回 延べ 109人
- ▶ 理学療法士指導による体力測定や、前田郁健康運動指導士による体操教室
 9箇所 108人

○ 介護予防普及啓発事業(町受託)の推進

○ コロナ禍で集い開催に不安がある中、消毒等のコロナ対策をとりながら地域での転倒予防体操普及に努めた

- ▶ 地域の集いにおける転倒予防運動の実施

実施集い人	回数	参加人数	
		実人数	延べ人数
中島ふれあいの集い	2	9	15
上野・田井ふれあい喫茶	1	18	18
桜会	6	13	49
上ノ土居の集い	1	10	10
田井なでしこふれあいの集い	3	25	55
舞田の集い	8	7	56
合計	21	82	203



▶ あったかふれあいセンターにおける転倒予防運動の実施

サテライト拠点	回数	参加人数	
		実人数	延べ人数
平石	9	12	72
地藏寺	16	28	320
和田	9	12	87
森	38	23	551
石原	10	27	156
松ヶ丘	9	23	129
相川	10	18	109
南川	8	12	58
黒丸・下瀬戸	1	6	6
とんからりんの家	146	41	2,108
合計	256	202	3,596

▶ 理学療法士指導による体力測定や、前田郁健康運動指導士による体操教室

13ヶ所 147人

▶ 若い世代に向けての普及啓発教室を開催

若い世代に向けての教室1回29人 1回 29人

トレーニングサポーター養成講座2回36人 2回 36人

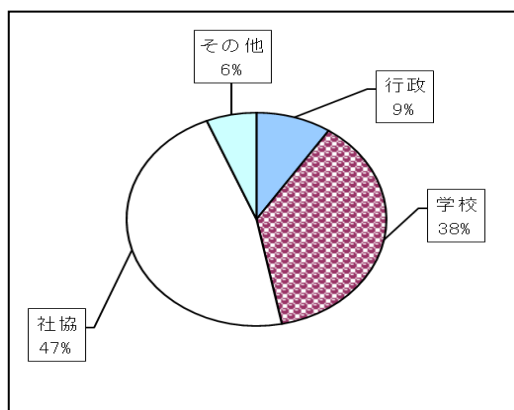
▶ 自主開催を行っている地域の集いへの外出支援は実施なし

- ▶ 包括支援センターと連携し高知県が実施する健康パスポートの取組みを実施
- ▶ 普及啓発のためのリーフレットを2,000部作成し全戸配布を実施
- ▶ リーフレットを活用したフレイル予防教室を開催 3ヶ所(宮古野、地藏寺、桜会) 36名

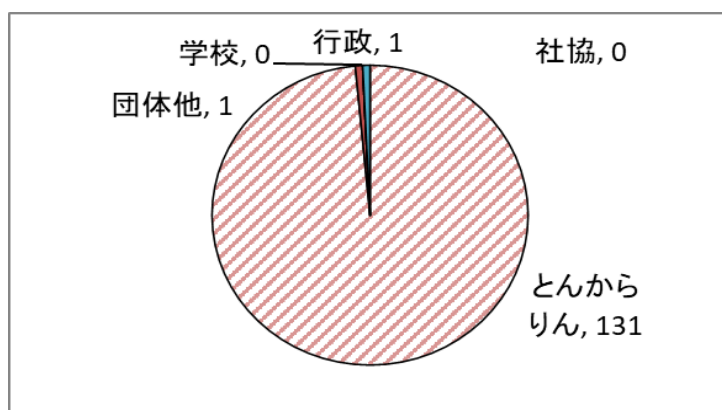
(7) バス・ゆうあい号の活用等ニーズに沿った送迎体制・外出支援の充実

- ゆうあい号・バスを有効活用し送迎の支援をした
 - ▶ 送る 267回 2,064人
 - ▶ あったか強化事業において、送迎における運転手雇用継続ができた
 - ▶ あったかサテライトと集いの実施地区における外出支援(おでかけ)の送迎
あったか(あったかロビー作品展 12回)

社協バス 利用回数 33回



ゆうあい号利用回数 133回



(8) ゲートキーパー機能を意識し、必要な支援につなぐ(つなぐ)

- ▶ つなぐ(行政・家族・民生委員等) 60回 91人

(9) 地区の実情とニーズに沿った集いの開催・検討

- ▶ 宮古野地区でつどいの開催 6回 32人

(10) 住民主体の集い運営の支援

実施集い名	回数	参加人数	
		実人数	延べ人数
中島ふれあいの集い	2	9	15
上野・田井ふれあい喫茶	1	18	18
桜会	6	13	49
上ノ土居の集い	1	10	10
田井なでしこふれあいの集い	3	25	55
舞田の集い	8	7	56
合計	21	82	203

※コロナ禍で集い開催に不安がある中、消毒等のコロナ対策をとりながら実施した

※宮古野地区の集い支援をおこない、キーパーソンも見えてきた

▶ 地域の集い連絡会を実施 2回 15人

(11) 地域見守りマップ(仮称)の作成

○ あったか松ヶ丘の集いにて試作した

(12) 働ける場やしくみをつくるなど集い機能の強化

○ 田井地域における新たな集いの開催に向けた取り組み

- ▶ 田井地域のフィールドワーク 6回
- ▶ 既存の集いへのヒアリング 4件
- ▶ 地域福祉部で検討会 3回
- ▶ 理事会(地域福祉部会)にて進捗状況の報告 1回

(13) 日常生活上の課題解決に向けた支援

▶ 生活支援 21回 延べ 51人



夏休みボランティアワークキャンプでの救急法訓練の様子